

Luncheon Linguistics, 15 June 2022

2022（令和4）年6月15日

「あのカティ語はこのカティ語ではないのか」

発表者：吉岡 乾（国立民族学博物館 人類基礎理論研究部 准教授）

パキスタン北西部で調査をしている、インド・ヨーロッパ語族ヌーリスタン語派の言語であるカティ語だと思われる言語に関して、先行研究を概観しつつ、その同定にまつわる問題点を報告した。

今回は主に、円唇化子音音素の有無、R 音性母音（反舌母音）の音韻的分析の難しさと音素として立て（られ）るか否か、代名詞の格変化の記述間の異同、コピュラの活用形の異同等を検討して、各先行研究が記述している言語実体とは大なり小なり異なっているが、別言語であると言い切れもしない、そういった距離感の、少なくとも体系的に研究がまとめられてはいない変種であることを確認した。そもそもカティ語とされている言語の中身が一枚岩ではなく、世界的に見ても古今に通じて研究が少ない語派、言語であるため、研究同士を見比べて線引きを確定したりもしづらい、調査に行こうにも地域的に許可が得られないという、多重苦の状況も再確認された。